| 議案　第　２６　号 | いしかわ歴史遺産の認定について |
| --- | --- |

１　提案理由

「いしかわ歴史遺産」の認定を行うため

２　根拠法令

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２１条

３　内　　容

次頁のとおり

# いしかわ歴史遺産の認定について

## 1　概　要

「いしかわ歴史遺産」は、全国に本県の魅力を発信し、観光誘客や地域活性化を図ることを目的とし、世代を超えて受け継がれている歴史、伝承、風習や有形・無形の文化財をそれぞれ関連づけ、その魅力をわかりやすく説明したストーリーを認定するもので、平成27年度創設した制度である。

なお、平成27年度は5件、平成28年度は3件認定している。

## 2　認定までの経緯

| | |
|---|---|
| 6月末～8月末 | 市町から認定申請を受付 |
| 9月～10月 | 市町からのヒアリング及び現地調査 |
| 11月28日（火） | いしかわ歴史遺産認定審査委員会にて認定候補の選定 |

## 3　認定候補(案)

七　尾　市　「能登国府を探る　～能登立国1300年～」

輪島市ほか※1「能登の禅の古刹と古道を歩く　～永光寺から總持寺へ～」

中能登町ほか※2「能登の王墓　～半島を舞台に躍動したノトの王～」

※1 羽咋市

※2 羽咋市、志賀町

## 4　認定日

認定証交付の日

## 能登国府を探る　～能登立国１３００年～　（七尾市）

養老２年（７１８）、能登国が立国し、現在の七尾には、古府や国分の地名や多くの文化遺産が今も残ることから、この地に国府が存在したことは確実とされている。

七尾には、古墳時代に有力豪族の能登臣が国造に任命されて勢力を築き、七尾湾という天然の良港を擁していたことが国府選定に有利に働いたとみられる。

天平２０年（７４８）、能登を旅した大伴家持は、この地の情景を詠んだ和歌を万葉集に遺した。また、七尾には熊甲二十日祭、青柏祭といった古来から受け継がれてきた祭礼が行われている。

能登国府が置かれた七尾には、先人が紡いだ歴史と文化が今も息づいている。

須曽蝦夷穴古墳

総社本殿

能登国分寺跡

熊甲二十日祭の枠旗行事

「能登国府を探る　～能登立国１３００年～」主な構成文化財一覧表

| 番号 | 文化財の名称 | 指定等の状況 | 説　　明 | 文化財の所在地 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 万行遺跡 | 国指定（史跡） | 古墳時代初頭の大型倉庫群。七尾における港湾施設の初現。 | 七尾市 |
| 2 | 矢田高木森古墳 | 市指定（史跡） | 七尾南湾に臨海する全長55mの前方後円墳。6世紀初頭。 | 〃 |
| 3 | 院内勅使塚古墳 | 県指定（史跡） | ヤマト政権との繋がりを示す巨石積みの横穴式石室墳。能登臣の墓とも言われている。7世紀初頭。 | 〃 |
| 4 | 須曽蝦夷穴古墳 | 国指定（史跡） | 東北遠征に従軍し、彼地で戦死した能登臣馬身龍の墓とも言われる双室の横穴式石室墳。 | 〃 |
| 5 | 総社本殿 | 市指定（建造物） | 国府があった平安時代に能登各地域の神を勧請して、総社に祀り、国司が参拝したという。 | 〃 |
| 6 | 能登国分寺跡附建物群跡（古府・国分遺跡） | 国指定（史跡） | 全国に建設された国分寺の一つ。843年大興寺から昇格して成立。古府・国分遺跡はその周辺一帯。 | 〃 |
| 7 | 能登国分寺跡出土方形三尊塼仏 | 市指定（考古資料） | 古代能登に仏教文化が伝わったことを示す粘土で作られた仏。 | 〃 |
| 8 | 千野廃寺 | 市指定（史跡） | 能登国分尼寺または官衙施設の可能性が指摘されている。 | 〃 |
| 9 | 印鑰神社（絹本著色印鑰明神垂迹図） | 県指定（絵画） | 能登の国印、正倉の鍵を祀った神社。この垂迹図は印鑰明神として、印鑰神社に伝わり、尊崇されてきた。 | 〃 |
| 10 | 机島 | 市指定（名勝） | 天平20年（748）、大伴家持が能登巡察の折、香島津から熊来村に渡った時に採取した能登国歌にこの地名がある。 | 〃 |
| 11 | 熊甲二十日祭の枠旗行事 | 国指定（無形民俗） | 朝鮮半島からの渡来神を祭神とする久麻加夫都阿良加志比古神社（くまかぶとあらかしひこじんじゃ）に末社19社が参集する。神事の後、700m離れた加茂原でお練りを行う。 | 〃 |
| 12 | 大地主神社（青柏祭の曳山行事） | 国指定（無形民俗） | 大地主神社は七尾港近くに鎮座し、能登立国と同じ年（718）に創建されたと伝わる。青柏祭で奉納される巨大な山車は「でか山」と呼ばれ、北前船を模したものとも伝えられる。 | 〃 |

## 能登の禅の古刹と古道を歩く　～永光寺から總持寺へ～

（輪島市、羽咋市）

鎌倉時代に民衆救済の新仏教の一つとして生まれた禅の教えは、総持寺を開山した瑩山紹瑾により能登の地に伝えられた。

瑩山の弟子、峨山韶碩はその教えの発展の礎を築き、峨山が伝道のために歩んだ、永光寺と總持寺を結ぶ険しい山道は、やがて「峨山道」と呼ばれるようになる。

厳しい「禅」の修行で知られる教えは、前田家の庇護を得て発展し、全国へ広がり、多くの修行僧を受け入れている。能登の「禅の古刹と古道」を訪れば、禅の文化を肌で感じることができる。

總持寺祖院（そうじじそいん）

峨山道（がさんどう）

永光寺（ようこうじ）

黒島伝統的建造物群保存地区（くろしまでんとうてきけんぞうぶつぐんほぞんちく）

「能登の禅の古刹と古道を歩く　～永光寺から總持寺へ～」主な構成文化財一覧表

| 番号 | 文化財の名称 | 指定等の状況 | 説　　明 | 文化財の所在地 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 豊財院（ぶざいいん） | 未指定 | 瑩山禅師が開いた能登最初の禅道場。永光寺とともに、能登の曹洞禅のルーツとして、瑩山紹瑾が伝えた禅思想の足跡を辿るうえで欠かせない聖地。 | 羽咋市 |
| 2 | 永光寺（ようこうじ） | 県指定（史跡） | 豊財院の開創後、瑩山が、白ぎつねに導かれて本山にたどり着き、永光寺を開山したと伝わる。その伽藍は「永光寺式」と呼ばれ、曹洞宗伽藍の典型・祖形とされる。 | 〃 |
| 3 | 峨山道（がさんどう） | 未指定 | 瑩山により總持寺が開かれ、總持寺二祖峨山（永光寺兼任）が20余年に渡って駆けたと伝わる。現在も峨山道巡行やトレイルランが行われ、峨山禅師が往来した道が今も人々に愛されている。 | 輪島市<br>穴水町<br>志賀町<br>七尾市<br>中能登町<br>羽咋市 |
| 4 | 大本山總持寺祖院（だいほんざんそうじじそいん）<br>太祖堂（たいそどう）ほか17棟 | 国登録（建造物） | 行基の創建と伝えられる諸岳観音堂を、元亨元年（1321）住持の定賢が瑩山に譲り、曹洞宗總持寺としたのに始まる。大本山として永らく宗門興盛の中心となった。 | 輪島市 |
| 5 | 経蔵（きょうぞう） | 県指定（建造物） | 寛保3年（1743）、加賀藩6代藩主前田吉徳の建立によるもの。堂内中心には、一切経を納める巨大な回転式の輪蔵を造る。輪蔵は八角宝形造り。 | 〃 |
| 6 | 伝燈院（でんとういん） | 市指定（建造物） | 總持寺開祖・瑩山禅師の霊廟。元禄6年（1693）6月の再建。文化と明治の二度の大火を免れた。 | 〃 |
| 7 | 慈雲閣（じうんかく）（観音堂（かんのんどう）） | 市指定（建造物） | 總持寺の前身である諸丘観音堂の本尊と伝えられる尊像（市有形（彫刻）。瑩山禅師に二度霊告し、總持寺を開創させた）を祀る御堂。文化8年（1881）再建。 | 〃 |
| 8 | 輪島市黒島地区（くろしまちく）<br>伝統的建造物群保存地区 | 国選定（伝建地区） | 北前船の船主や船員の居住地として発展した集落。總持寺における輪番住職の交代では、黒島の森岡家で休憩、正装して入山するのが習わしであった。 | 〃 |
| 9 | 旧角海家住宅（きゅうかどみけじゅうたく） | 国指定（建造物） | 黒島を代表する廻船問屋の一つ。角海家は、明治中頃まで海運を行い、北前船交易衰退後は銀行業に転身した。往時の間取りを良好に残す。 | 〃 |
| 10 | 黒島天領祭（くろしまてんりょうさい） | 市指定（無形民俗） | 黒島の先駆的な廻船問屋、番匠屋善右衛門寄進の大神輿で祭りの原形ができ、總持寺輪番住職の人足を黒島の人々が務めたことから現在の形になった。それは十万石の大名行列に匹敵するといわれている。 | 〃 |

## 能登の王墓　～半島を舞台に躍動したノトの王～

（中能登町、羽咋市、志賀町）

日本海に大きく突き出す能登半島は、その地理的な環境から古来より多くの文化を受け入れてきた。ヤマト政権は前方後円墳に代表される王墓を各地に広め、古墳時代の王墓は、権力誇示のためのモニュメントとなった。

能登では、４世紀後半から水陸の要所に「能登の王墓」というにふさわしい規模の古墳が築かれてきた。「能登の王墓」は時代を経て、墳丘上に社が建ち、地域の人々が祈りを捧げる場所へと変容しながらも継承され、様々な文化や伝承を生み出し、今も引き継がれている。

雨の宮古墳群

小田中親王塚古墳

水白鍋山古墳

能登上布

「能登の王墓　～半島を舞台に躍動したノトの王～」主な構成文化財一覧表

| 番号 | 文化財の名称 | 指定等の状況 | 説　　明 | 文化財の所在地 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 吉崎・次場遺跡 | 国指定（史跡） | 邑知潟のほとりの微高地に形成された北陸を代表する弥生時代の集落遺跡。調査により、多くの建物跡、土器、木製品が発掘され、能登・北陸地方にとどまらず、近畿・東北・山陰地方など広く交流があったことが裏付けられた。 | 羽咋市 |
| 2 | 杉谷チャノバタケ遺跡 | 未指定 | 主に弥生時代中期から終末期の高地性集落で環濠がある。検出された竪穴建物跡は 20 棟に及ぶ。出土遺物には、チマキ状の炭化米塊があり、日本最古のオニギリとして知られている。 | 中能登町 |
| 3 | 徳田燈明山古墳 | 町指定（史跡） | 能登最大の前方後円墳で墳長 83.5mの規模を誇る。墳丘は 2 段築盛で葺石をもつ。能登半島の外浦・内浦間の交通の要衝に立地する古墳として重要。 | 志賀町 |
| 4 | 滝大塚古墳 | 未指定 | 全長約 90mの帆立貝形古墳で能登最大規模を誇る。日本海を臨む滝崎に位置しており、埋葬された人物像は能登半島西海岸の海上交通権や邑知潟一帯を支配したものと考えられる。 | 羽咋市 |
| 5 | 小田中親王塚古墳 | 町指定（史跡） | 崇神天皇の皇子大入杵命墓とされる陵墓参考地。墳丘は 3 段築盛で葺石が施される。出土したと伝えられるものに三角縁神獣鏡がある。被葬者は、能登の平野部を支配した者と考えられる。陵墓として治定されるまでは、墳丘上に親王社（能登臣祖神社）が存在した。 | 中能登町 |
| 6 | 小田中亀塚古墳 | 町指定（史跡） | 上記と同様、大入杵命墓（飛地）とされる陵墓参考地。考古学的には、親王塚古墳に先行するといわれる前方後方墳の墳形をとる。 | 〃 |
| 7 | 水白鍋山古墳 | 町指定（史跡） | 古墳時代中期、5世紀代の築造された帆立貝形古墳で能登地域では初現となる埴輪の出土が確認された。 | 〃 |
| 8 | 雨の宮1号墳 | 国指定（史跡） | 能登地域全域に支配を及ぼしたとみられる首長墓。支配地域を望見する尾根上に築かれた。ヤマト王権との主従関係が伺われる豊富な副葬品と長大な粘土槨が確認されている。墳丘上に天日陰比咩神社（あまひかげひめじんじゃ。雨の宮）が鎮座し、雨乞いの社として、地域に引き継がれた。 | 〃 |
| 9 | 雨の宮2号墳 | 国指定（史跡） | 1号墳に後続する前方後円墳。より大和王権との密接な関係が窺える。 | 〃 |
| 10 | 能登上布 | 県指定（無形） | 江戸時代中期には商品化された麻織物。崇神天皇（すじんてんのう）の皇女が 2000 年前に機織りを伝えたとの伝承が残る。 | 〃 |

# いしかわ歴史遺産認定ストーリー

○ 平成27年度(平成28年1月20日認定)

| No | 申請市町<br>(関係市町) | ストーリータイトル | 備考 |
|---|---|---|---|
| 1 | 金沢市 | 三つの寺院群と茶屋街　～歩く・観る・祈る～ | |
| 2 | 七尾市 | 七尾城が語る「能登の戦国都市物語」 | |
| 3 | 小松市 | 平安の世の歴史物語が息づく歌舞伎のまち・小松 | |
| 4 | 輪島市 | 平家の末裔　時国氏の繁栄 | |
| 5 | 羽咋市<br>(宝達志水町、志賀町) | 「漂着神(よりがみ)」の聖地<br>～日本海交流が伝える祈りと祭りの文化財めぐり～ | |

（5件　5市2町）

○ 平成28年度(平成29年1月20日認定)

| No | 申請市町<br>(関係市町) | ストーリータイトル | 備考 |
|---|---|---|---|
| 6 | 金沢市 | きらめきに包まれるまち　～今に息づく金沢の金箔～ | |
| 7 | 白山市 | 加賀の白山と水の文化 | |
| 8 | 能登町<br>(珠洲市、輪島市、七尾市、羽咋市、宝達志水町、中能登町、志賀町、穴水町) | 能登半島を彩る深紅の花　～のとキリシマツツジ古木群～ | |

（3件　6市5町）